

生物の視点で水質考察

茨城大 藤田准教授
「ヨシヅミ」に講演 鉦



ヨシヅミの自然保護活動に取組む「クリーンアップひ

ぬまネットワーク」(谷萩八重子会長)は21日、鉦田市箕輪のいこいの村ヨシヅミで2019年度定期総会と講演会を開いた。茨城大の藤田准教授が「ヨシヅミから見たヨシヅミ」と題して講演

講演する茨城大の藤田准教授

し、「生き物の視点で水質指標を考えていくことも重要」と語った。

ヨシヅミは関東唯一の汽水湖・ヨシヅミの名産。藤田准教授はヨシヅミを飼育しながら生活排水や農薬、塩分濃度などがヨシヅミの成長に与える影響を研究している。講演で藤田准教授はヨシヅミの成長と餌となるケイ藻の関係について「(藻の量が)浮遊物質量の環境基準を少しくらい上回ってもヨシヅミはストレスを感じない。ただ、餌が多

ければいいわけでもない」と実験の成果を紹介。

生活排水の影響にも触れ「都市下水の中でも粒子状の固形物は餌になるが、窒素成分は悪い影響を与える」と指摘。今後もヨシヅミの視点から必要な水質対策や排水処理の在り方について研究を進めていくことを報告した。

総会には会員ら約40人が出席し、ひぬま環境フォーラムの開催などを含む19年度事業計画を承認した。

(戸島大樹)